

# 保育学生における絵本の読み聞かせの理論及び方法の修得に関する研究 —絵本を読み聞かせられる立場に立つ経験を取り入れることを通して—

## Research on the Theory and Method of Learning Storytelling for Kindergarten Student Teacher Trainees

(2002年3月29日受理)

西川 宏子  
Hiroko Nishikawa

Key words : 幼児, 絵本の読み聞かせ, 保育学生

### I 研究の目的

絵本の読み聞かせは、保育者にとって不可欠であり、こどもを本好きにするのにも有効な方法の一つであると数多く報告されている<sup>1)</sup>。しかし、読み聞かせに関する文献や研究は、絵本の教育的意義などの理論や年齢別の絵本紹介に焦点を当てたものが多く、方法や技術に着目したものは少ない。読み聞かせの方法や技術は、保育現場にでてから、周囲の保育者からのアドバイスや保育者自身の研鑽にゆだねられている傾向にある。だが、読み聞かせの技術は、経験によって向上するものであるとともに、比較的短期間に、ある程度まで上達可能な技術でもある。

筆者は、朗読ボランティアのための講習会を受講した経験がある。そこでは、累計10時間程度の講習時間で発声や発音などの朗読技術を修得し、聞く側にたつことを学ぶことが目的であった。この朗読の技術と聞く側にたつ視点を絵本の読み聞かせの理論を方法を修得する授業に取り入れてみた。

読み聞かせられる側は、幼児役と評価役を設定した。幼児役では、絵本を楽しむこと、多くの絵本を知ること、そして、幼児の視線の位置を体験することにより保育者になったときに幼児への配慮ができることが目的である。評価役は、保育実習中に受けるであろう設定保育等での周囲の保育者による評価を疑似体験することと、学習した読み聞かせの方法のポイントを他者を評価することにより再認識し、知識を定着化させることが目的である。

また、評価役が作成する評価表は、保育者役が読み聞かせ実技終了後に自身の実技を点検する手助けとなるであろう。

これらの経験が、保育学生にとっては、実習に向けての備えの一つとなると考えた。

更に、保育所実習を授業の開講期に挟むことにより修得した理論と方法を実習により自己検証ができると考えた。

本校では、絵本の理論を「言葉」の授業で学び、読み聞かせの実技を「保育方法演習」の授業で行なっている。本研究は、「保育方法演習」の時間の一部を活用して行なったものである。

本発表の目的は、読み聞かせられる側に立つ経験をもった保育学生が読み聞かせの理論と方法を修得していく過程を分析することを目的とする。

### II 研究の方法

- (1) 対象 平成11年度中国短期大学2年生147名
- (2) 期間 平成11年5月12日～7月5日  
(保育所実習6月4日～6月26日)
- (3) 調査方法 下記の授業の中で、感想文や読み聞かせ実技の評価表を記入させた。また、授業終了時に、アンケートを実施した。

- (4) 授業時間 一回90分×4回
- (5) 授業形態 演習形式(保育方法演習の一部<sup>2)</sup>)  
1クラス(37~38名)×4クラス  
1クラスの中を4班に分ける。
- (6) 授業目標 ① 絵本への関心を高める。  
② 絵本の読み聞かせの教育的意義を学ぶ  
③ 読み聞かせの方法を学ぶ  
・朗読技術の修得  
・絵本を聞く側のことを考慮する視点を持つこと  
④ 保育所実習・教育実習に備える  
⑤ 多くの絵本を知る。

(7) 授業内容

導入・授業開講時に、絵本の読み聞かせの実技が予定されており、絵本は学生個人が探し、準備することを講師は知らせる。

(目的①⑤)

- ・授業開講時に、実習のビデオ<sup>3)</sup>を見、保育者が絵本を読み聞かせている場面を見る。(場面は、幼児が集中し、保育者は、読み聞かせが終わった後の余韻を大切にしながら幼児の立場につながる話をしていく。)(目的①)

授業1回目

- ・絵本の読み聞かせの実技のビデオ<sup>4)</sup>を見ながら、気になる場面のメモをとる。ビデオ終了時に、感想文作成。(目的①③⑤)
- ・絵本の教育的意義についての講義を受ける。(目的②)
- ・講師による絵本の読み聞かせの模範実技を行なう。講師は、保育者役になり学生は全員幼児役になる。学生が行なう実技と同様に、保育者のあいさつから始まり、導入の話も終わりの話も行なう。(目的①③)

授業2回目

- ・発声及び発音練習(目的③)
- ・全体での声を出しての読み聞かせ実技(目的③)
- ・読み聞かせ実技1回目(目的①③④⑤)

授業3回目

- ・読み聞かせ実技2回目(目的①③④⑤)
- ・読み聞かせ実技3回目(目的①③④⑤)(保育実習を受ける)

授業4回目

- ・読み聞かせ実技4回目(目的①③④⑤)
- アンケート実施

(8) 読み聞かせ実技の指導ポイント

読み聞かせのビデオーゆっくり読む  
大きな声

講師の模範実技――絵本の持ち方。ページのめくり方など。

実技1回目――読む速さ、声の大きさ。  
絵本の持ち方。

実技2回目――表現や表情。間のとおり方  
イントネーションなどの癖  
幼児役の反応を見ること。

実技3回目――最初と終わりの話

実技4回目――復習

(9) 読み聞かせの実技方法

① 役割分担

	1班	2班	3班	4班
実技1回目	保育者	評価役	幼児	幼児
実技2回目	幼児	幼児	保育者	評価役
実技3回目	評価役	保育者	幼児	幼児
実技4回目	幼児	幼児	評価役	保育者

・保育者役

保育者は、2グループに分かれる。保育者全員で幼児役の前に並び、元気にあいさつ。自己紹介と読み聞かせる絵本を紹介。教室の前後にグループ別に分かれ、椅子に座って一人ずつ読み聞かせを行なう。

・幼児役

自分が聞きたい絵本を持っている保育者グループを選択する。保育者用の椅子の前に座り、読み聞かせを聞く。その際、幼児役としての発言は自由である。

・評価役

評価役も幼児役と同様に、自分が読み聞かせを聞きたいグループを選択する。評価は、幼児役の背後で採点する。評価役の私語は禁止。評価表は、講師に提出後に、保育者役に渡される。評価表には評価者名も記入。評価表は資料1。

資料1 評価表

日 時：	月	日	時間目
評 価 者：			
保育者役：		絵本の題名：	
	大変よく出来ました	よく出来ました	ふつう
			もう少しがんばれ
			いっぱい頑張れ
はじめの話			
声の大きさ			
読む早さ			
表現及び表情			
絵本の見せ方			
終わりの話			
今後の課題			

幼児役も評価役も保育者グループの選択権は認められているが、極端な偏りは避けることを予め伝えておく。

(10) 評価表及びアンケート回収率等

	受 講 生	回収率	調 査 実 施 日
評 価 表	中国短期大学2年生 147名	100%	平成11年5月20日～7月5日
アンケート	中国短期大学2年生 147名	96%	平成11年7月12日～7月15日

### Ⅲ 結果と考察

#### (1) 評価表結果

評価役の作成した評価表を、次のように得点化した。

たいへんよくできました・・・	4点
よくできました	・・・3点
ふつう	・・・2点
もうすこしがんばれ	・・・1点
いっぱいがんばれ	・・・0点

表1 評価役による絵本の読み聞かせの評価

	一回目	二回目	三回目	四回目
はじめの話	2.977	2.910	2.972	2.667
声の大きさ	2.664	2.679	2.853	2.885
読む速さ	2.797	2.526	3.183	2.677
表現及び表情	2.625	2.607	2.963	2.540
絵本の見せ方	2.789	2.714	2.826	2.521
終わりの話	2.046	2.402	2.862	2.469
総合得点	15.90	15.84	17.66	15.81

表2 評価役から保育者役への「今後の課題」についてのコメント行数

	一回目	二回目	三回目	四回目
2行以下	89.1%	82.0%	77.1%	89.6%
3行	7.1%	14.1%	12.8%	9.4%
4行	2.3%	3.9%	9.2%	1.0%
5行	1.5%	0%	0.9%	0%

評価役による絵本の読み聞かせの評価は、実習直前の実技の3回目が最も高得点となった。(表1)特に、「絵本を読む速さ」や「表現及び表情」や「終わりの話」の評価が高くなっている。要因は、読み聞かせの指導のポイントが実技の3回目で全て終了していることと、実技3回目の保育者役がそれ以外の担当の役を全て経験し、読み聞かせのポイントをある程度把握できたこと、練習時間を充分にとれた事などが考えられる。実技の2回目ごろから、はじめと終わりの話に手遊びを取り入れるなどの工夫も見られた。

また、評価役が保育者役にあてた「今後の課題」においても、3回目の実技の時が最も多くかかれていた。

(表2)しかし、実習後は、評価は厳しくなり、今後の課題のコメントも少なくなっていた。保育現場での、読み聞かせ実践の難しさなどを感じてきたのかもしれない。このことが表3からも伺える。

#### (2) アンケート結果

アンケートの表3・4の設問は、複数回答を認めた。

表3 保育実習中にほめられたことと注意されたこと

	ほめられ	注意された
幼児への接触のしかた	54.8%	11.2%
実習態度	43.6%	2.9%
幼児との遊び	40.6%	7.0%
掃除	36.4%	6.3%
絵本の読み聞かせ	32.2%	16.8%
言葉かけ	30.7%	28.7%
あいさつ	30.7%	8.4%
部分実習	24.5%	36.4%
実習日誌	23.8%	21.0%
指導案	18.9%	23.7%
総合実習	11.9%	14.0%
服装や身なり	4.9%	1.4%
その他	10.5%	7.0%

表4 絵本の読み聞かせの授業で最も良かったこと

みんなの前で読み聞かせできたこと(保育者役)	37.4%
たくさんの絵本を聞いたこと(幼児役・評価役)	32.0%
読む声の大きさと読む速さの指導	29.9%
はじめと終わりの話のしかた	27.9%
表情や表現の指導	24.5%
絵本の見せ方	23.8%
子供役になって絵本を聞いたこと(幼児役)	13.6%
子供の表情を見ながら読むこと	13.3%
発音及び発声練習	10.9%
評価役の先生によって評価をつけたこと	10.2%
絵本の読み聞かせビデオ	8.8%
絵本の読み聞かせの理論	1.4%
その他	3.4%

実習中に注意されたことの5位に「絵本の読み聞かせ」があげられていた。(表3) 一方、保育実習を受けた143名の学生中、46名(32.2%)から「絵本の読み聞かせ」をほめられたとの報告もあった。保育に関心はあるものの保育技術が未熟な保育学生にとって、保育方法の一つである絵本の読み聞かせをほめられたことは、何よりの励みになったようである。このことを契機に絵本への関心が高まり、絵本を設定保育の導入や壁面構成のモデルにするなど様々な保育場面へ活用したとの報告もあった。学生の絵本の読み聞かせの理論及び方法の修得は、保育者、幼児、評価役の三者を体験することにより、聞く側に聞きやすく絵本が見やすいための工夫が生まれ、効率的に修得されていったようである。アンケートからも、前述の三者になったことを授業の中で最も良かった点だったという回答が多かった。(表4) また、「読む声の大きさや速さの指導」「表情や表現の指導」などの絵本の読み聞かせの技術指導に対しても学生の評価は高かった。

表5 保育方法演習の中で最も良かった内容ともっと授業時間を長くして欲しい内容

	最も良かった内容	授業時間を長くして欲しい内容
絵本の読み聞かせ	34.1%	9.4%
保育者の言葉かけ	15.5%	31.0%
指導案の書き方	15.1%	35.0%
しつけの理論	8.6%	12.8%
幼稚園実習ビデオ	7.4%	5.9%
お箸の持ち方	5.9%	1.0%
歯磨き指導のビデオ	5.1%	2.0%
レポート(本)の感想文	4.3%	1.0%
保育方法の理論	3.1%	1.5%
その他	0.9%	0.4%

保育方法演習の評価のなかでは、「絵本の読み聞かせ」の内容が最も評価が良かった。保育実習中に注意された項目の中で上位にあげられていた「ことばかけ」「指導案」に対しては、授業時間を長くして欲しいという意見が多かった。

今後は、読み聞かせの指導ポイントをより明確化し、

一人あたり一回の保育者役としての実技回数を増加させること、保育実習の反省を授業に生かしていくことを課題としたい。

## 註

- 1) 「第44回学校読書調査」『毎日新聞』1998年10月28日等。
- 2) 保育方法演習は、1年生後期と2年生前期に履修することが予定されている。2年生前期は、「しつけの理論と方法」「絵本の読み聞かせ」「指導案作成」が授業内容であった。
- 3) ビデオ教材『保育実習の日々』文部省。
- 4) ビデオ教材『読んであげよう楽しい絵本の世界』岩波書店。